



[エマオ通信]

No.5 (12月15日発行)
 発行人 高良 研一 (会長)
 編集人 稲川 仁 (副会長・事務局長)
 発行者 木村 均 (書記)

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 「伝道者養成と教会形成を担う働き」

24/25年度主題: 「私と教会が元気になるには」 聖句: わたしたちの心は燃えていたではないか (ルカ 24:32)

<メッセージ> 「主に従う喜びの献身を」

田口昭典 (福岡ベタニヤ村教会 牧師)

壮年が元気になる一文を期待されて、牧師人生42年を振り返った。教会のことより、飛び込んでくる様々な課題を持った人たちとの出会いの中で格闘してきた。精神科の病院と家族会、福祉事務所、弁護士、断酒会、憲法と平和運動等々。出会いから元気をもらってきた。バプテスマ決心者が起こされると有頂天になって喜んだ。まずは説教でも人は救われる。頑張ろうと力が出た。

聖書は「弱い時に強い」という。本当か? 綺麗事は困る。パウロは知恵・知識に満ちていた。神秘的な体験もしていた。私は思う。パウロは自分の力で頑張っていたのではないかと。彼は復活が分からなかった、とは言い過ぎか。自分の力に完全に絶望した時、彼は復活信仰を得た。II コリント 1: 8-10 参照。彼は生きる望みを失った。死の宣告を受けた。自分を頼りに出来なかった。パウロは言う。「死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました」と。

キング牧師の「わたしには夢がある」の演説をいつも聞いている。あれは私を元気付ける説教である。どんな困難な時にも、神の計画を信じ、夢を持ち続けることの大事さを教えられる。力が湧くのを感じる。悔い改めと献身の思いが湧き上がり感動する。彼は言う。「この信仰があれば、絶望の山からも希望の石を切り出すことができる」と。

今、我らバプテスト壮年に「自分を捨て十字架を負って主に従う喜びの献身」が主から期待されている。



<証①> 「福音に与る招聘」

東北連合壮年会会長 向井田洋 (仙台)

「招聘」は名詞ですが、後ろにいろいろな言葉が続きます。一する、一しない、一するとき、一すれば、一しろ、一せよ。いろいろな場面が浮かびます。私も長い間、教会にいたので、何度かこの招聘を経験しました。その多くは牧師の招聘でした。教会が牧師を招聘する、牧師が教会に招聘されるとき、実に多くのドラマがあります。他の教会から招聘され、牧師が欠員になる場合もあります。招聘は当事者のみならず、その家族にとっても大きな出来事です。会社員の辞令のように、発令する会社も受ける社員もその組織にいるための必要不可欠なものとして受け入れています。昇格人事であれば、本人、家族、職場も喜んでくれるでしょう。喜ばれる招聘だといいいのですが、「招聘」の後ろに言葉をさらに追加します。一できない、一したのに、どんな場面が浮かびましたか。経済的な面、教会員の理解、個人の経歴や資質など、何度神様に祈っても、前に進めないこともありますね。

私たちは積極的に伝道するために全国壮年会連合を組織しています。時として、活動が消極的になったり、停滞したりすることもあります。伝道するために伝道者養成事業や神学校献金など様々な活動、事業を展開しています。同じように私たち教会も伝道するために招聘するのです。

「福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。」(新共同訳 1 コリ 9:23)



東北連合次期役員選出総会の様子
 (2024年11月4日・仙台教会)

<証②>

「壮年会一泊修養会」

石田 孝 (姪浜教会)

私たち姪浜教会壮年会は10/5(土)～6(日)に壱岐バプテスト教会で一泊修養会を行ないました。壮年会では1995年頃から毎年一泊修養会を続けてきましたがコロナ感染拡大に伴って3年前から自粛していました。しかし2024年度の活動計画の中で「そろそろ再開してもいいのでは…」という声が出て再開することを決めました。

壱岐バプテスト教会へは2度目の訪問になり前回は小高い山の中腹に立つ素敵な教会の広い庭に立てられた十字架の修繕を中心に行ない、今回は教会の庭、及び周辺の草刈り、教会員との交わり、主日礼拝参加でした。教会にはエンジン付草刈り機2台が備えられ、今回参加した10名がそれぞれ役割を分担し草刈り作業等を進める中で、これまでこの作業を飛永牧師夫妻でされていたことはかなりのご負担であったことを実感しました。

それから準備したバーベキュー、主日礼拝(宣教は鈴木牧人牧師)、礼拝後の昼食を通して教会員、来会者との豊かで、温かい交わりのときを通して私たちが励まされる一泊修養会となりました。帰りの船上で私たちはできれば再びお邪魔して必要な教会内外の整備と教会のみなさんとの交わりをさらに深めたいと思いました。



バーベキュー後
壱岐教会のみなさんと



主日礼拝後の昼食



主日礼拝後
壱岐教会のみなさんと



草刈り作業

<今後の歩みと働きのための祈り>

- 11月9日に開催された「全国代表者会議」におきまして、下記の二つの委員会を採択しました。主の御心に叶った良き提案が来年3月1日までにできますように御祈りいたします。
 - **ジェンダーレスに関する検討委員会(仮称):**
西島(帯広)、長谷(各務原)、松田(道後)、山崎(佐賀)、木村(大井)、稲川(宝塚)
 - **役員候補者(副会長)選考委員会(仮称):**
向井田(仙台)、戸田(西川口)、山田(大井)、森(洋光台)、稲川(宝塚)
- 東京地方壮年連合主催の研修会「バプテストの教会形成」1月25日(土)13:00-15:30 大井教会(対面・オンラインのハイブリット開催)講師: ; 金丸英子氏(西南学院大学神学部教授)どなたでも参加できます。参加申込は東京地方壮年連合事務局長、木村均(大井) hjt.kimura0012@gmail.com までお願いします。
- 来年度より神学校献金が、神学生奨学金のみならず、東京バプ・九州バプの両神学校への運営資金の支援(年間350万円)として豊かに用いられるためにも、神学校献金の目標(24年度総額2500万円)達成の為に、各教会で豊かな取組みができるように。
- 教会形成を担う働きとしての協力伝道の一環として、中部連合壮年会の福井教会への協力伝道や、北海道連合の3教会合同WEB礼拝、西九州連合の五島教会への協力伝道、福岡連合の姪浜教会壮年会の壱岐教会での修養会のように、各地方連合やその壮年会を通じて伝道隊を含めた協力伝道の業により、一人ひとりが元気にされ、教会が元気になることが出来るように。
- 信徒ひとり一人が伝道者、そして献身者となり、教会を担う主体となる為に、神学校での(オンライン)受講等により良き学びの機会が与えられるように! そして、信徒一人ひとりの献身から「教役者の働きを担う献身」へ導かれるように。
- 各神学校の強みを生かした三つの神学校(西南大、東京バプ・九州バプ)と宣教研究所の相互連携、諸教会の研修に豊かに資することが出来るように。
- 来年の第60回全国壮年大会 in さいたま(埼玉の浦和教会でオンライン併用)2025年8月22(金)～23日(土) 北関東連合壮年会実行委員長 戸田 浩司(西川口教会)テーマ:「これからの No Border な教会の話をしよう! ～教会が「教会」であり続けるために～」主題講演 講師: 朴 思郁 日本バプテスト連盟宣教研究所所長(西川口教会牧師)多くの参加者により良き学びの大会となる為の準備のために。

<お願い>

- それぞれのところで主にあって頑張っておられる方々や働きをご紹介ください。このエマオ通信でその証を紹介してまいります。
- 第1回壮年大会(1965年目白ヶ丘教会他)開催以来の大会資料をお持ちの方をご紹介下さいますように。